

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 5 日現在

機関番号：32601

研究種目：基盤研究(A)（海外学術調査）

研究期間：2017～2021

課題番号：17H01653

研究課題名（和文）経済発展と村落共同体の制度変化：ミクロパネル実証と比較分析によるメカニズムの解明

研究課題名（英文）Economic development and institutional change in rural communities: comparative institutional analysis using micro-level panel data

研究代表者

加治佐 敬 (Kajisa, Kei)

青山学院大学・国際政治経済学部・教授

研究者番号：50377131

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 32,800,000円

研究成果の概要（和文）：急速に近代化が進む過程において、伝統的な村共同体の制度や慣行はどのように変化するのか、そしてその変化が村人に負の影響をもたらす場合には、どのような政策介入や開発戦略が有効かという研究課題を、スリランカの地表灌漑管理、フィリピンの稲作慣行、インドのため池灌漑管理、ネパールの震災対応をケースとして実証分析を行った。共同体メカニズムによる協調行動の促進は、必要に応じて効果的に発揮されるものの、村落構造が複雑化するに従い、政府の補助、公的なルール（建築基準など）の明確化と徹底化、市場機能による機械化の促進、さらには共同体の代替組織としてのNPOの役割が重要になってくることが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近年では、地域資源管理や相互扶助などの役割を担う組織として共同体に大きな期待が寄せられているが、本研究において過剰な期待は禁物であることを指摘した。特に近代化が進む過程においては、共同体は変容を余儀なくされ、期待される機能が発揮できなくなる点を明らかにした。またその対応として、政府の補助や市場の価格シグナル、そして新たな共同体としての市民組織の重要性を指摘した。これは学術的に新たな視点を提供する議論であり、また、社会的には共同体で生活を営む人々にとって将来の生計に直結する重要な指摘である。

研究成果の概要（英文）：This project investigated how traditional village communities are affected and transformed in the process of rapid modernization, and what policy interventions are effective when such transformation has negative impacts on villagers, using the cases of surface irrigation management in Sri Lanka, rice cultivation practices in the Philippines, reservoir irrigation management in India, and the reactions to earthquake shocks in Nepal. While the promotion of collective actions through community mechanisms can be effective when necessary, the analysis suggests that as village structures become more complex due to modernization, a support by the government, clarification and enforcement of official rules (such as building codes), promotion of mechanization through market mechanisms, and the role of non-profit organizations (NPOs) as substitutes for community become more important.

研究分野：開発経済学

キーワード：共同体 資源管理 制度変化

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

制度が経済発展を規定する重要な要因であると認識されてすでに久しく、制度分析は経済学の重要な一分野を形成している。経済発展にとって望ましい制度の特徴が見え始めてはいるが、しかし、なぜ多くの国でその最適制度が選ばれないのかという制度変化に関する問いは依然残されたままである。これは、速水＝ルタンの誘発的制度改革が機能するの否かという農業経済学の重要課題でもある。制度変化(もしくは停滞)のミクロレベルでの詳細なメカニズムの理解が、マクロ研究を補完するものとして重要であり、また、農業経済学の未解決の課題として重要であるという状況が本研究開始当初の学術的背景である。

2. 研究の目的

ミクロレベルの制度分析の対象として、本研究は、急速な近代化と経済環境の変化の下で変容を余儀なくされている村落共同体の制度を扱う。本研究の問いは、村落共同体では、どのような条件の時に柔軟な制度変化が起こっているのか(もしくは起こらないのか)、その変化や結果を背後で規定している社会選好はどのように変化し制度に影響しているのか、そしてその変化のもたらす結果は村の住人にどのような影響を与えており、負の影響がある場合どのような対応が有効なのかである。本研究は、様々な事例のミクロパネルデータの分析を行い、これらの問いに答えることが目的である。

3. 研究の方法

比較分析が可能となるように、対象とする事象や資源、変化、そして、それらに関連した課題が異なるケースを研究対象とした。具体的には以下の4か国5つのケースが対象である。それぞれの国で家計と共同体の調査を行い、可能であればパネルデータを構築することで、変化に対する対応を分析した。またゲーム実験を行い、社会選好を計測し、上記の問いに答えられるようにした。収集したデータの種類の列に記載した。

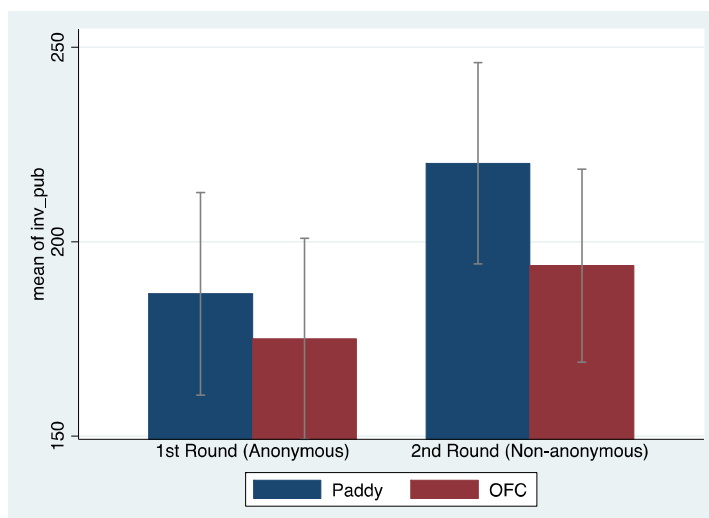
国・地域	対象	変化・ショック	課題	データ*
(1) スリランカ	灌漑管理	近代灌漑導入	社会選好・協調行動の変化	HP, CP, GE
(2) フィリピン・ラグナ州	人口	農村の都市化	人口の流動性と村落構造の変化	HP, CP,
(3) フィリピン・中部ルソン	雇用慣行	農村人口減少	雇用慣行の変化	HP
(4) インド・タミルナードゥ州	灌漑管理	地下水井戸普及	ため池の共同管理の変化	HC
(5) ネパール	家屋	震災	災害への脆弱性	HC

*HP: ハウスホールドパネル、CP: 共同体パネル、GE: ゲーム実験、HC: ハウスホールドクロスセクション

4. 研究成果

(1) スリランカ

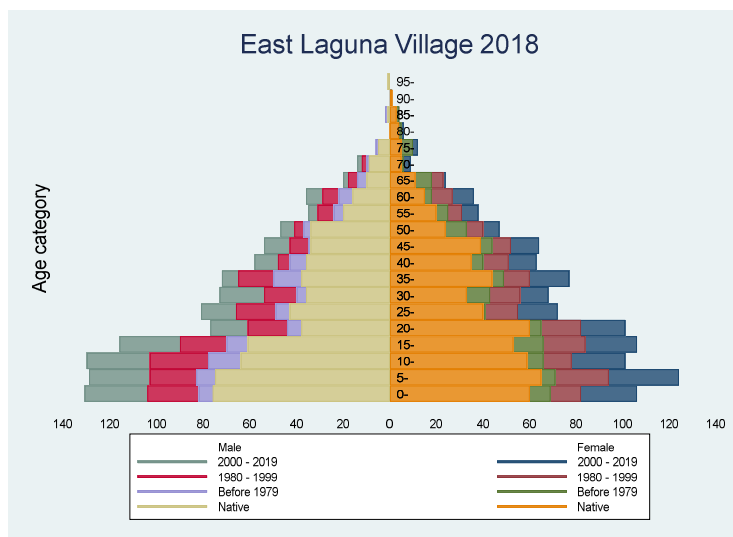
灌漑稲作は灌漑の維持管理のみならず営農においても共同作業の需要を増加させるため、公共的な価値観が育成されるという主張、いわゆる Rice Hypothesis というものがある(Talhelm et al. 2014)。本研究で対象としたスリランカの調査地では、日本の援助により大規模灌漑施設が建設され、共同作業の需要が増加した。ユニークなのは、稲作用の水路と非稲作用の水路が混在しており、入植した農家がどちらの水路に面した土地を入手できるのかは「くじ」によりランダムに決められたという点である。公共財ゲーム実験を行い、公共性規範のレベルを計測し、前者の水路をあてがわれた農家のグループと後者のグループを比較したところ、前者の方が平均的に高い貢献額を提示し、しかも実験のグループメンバーを匿名から開示に変更した2ラウンド目には、稲作グループにおいてより高い貢献額の上昇が観察された(Aida et al., 2023)。右のグラフで青色の棒グラフ(稲作グループ)が茶色の非稲作グループよりも高く、2ラウンド目でより高くなっていることこれに対応して



いる。これは、灌漑稲作導入により協調行動の必要性(よってフリーライダー的行動回避の必要性)が高まり、公共的価値観が高まったとみなすことができる。農業が中心の社会では、共同体の制度や規範は必要に応じて変化しうることを示唆する結果と解釈できる。

(2) フィリピン・ラグナ州

本研究の対象村は、1960年代より悉皆調査の行われているある一つの村である。マニラから高速道路で約2時間の場所に位置し、通勤も可能なことから、都市化が進んでいる。2018年に行った悉皆調査の結果をもとに、人口ピラミッドをこの村に住み始めた時期が分かるように作図したところ、近年に移住してきた家計が若年層の増加に貢献し、ピラミッドが依然として末広りの形状を保っていることが分かった(右図, Kajisa et al., 2021)。一方、図中でnativeと区別されている昔から村に住む家計(ピラミッドの一番中寄りの横棒)は徐々に少子化が進み若年層においてはほぼ垂直の人口構成になっていることが分かる。このように、都市近郊農村で、人口構成が複雑化してくる過程において、それまでの相互扶助や雇用慣行などが大きく影響されているであろうことが想像される。家計データを使い、そのような側面の分析を継続している。



(3) フィリピン・中部ルソン

本ケースは、中部ルソン地域で実施した稲作農家調査の2012-2016のデータを使い、農村人口が急速に減少する過程において、労働雇用がどのような影響を受け、農家はどのように対応しているのか分析した。下の表から分かるように、田植えの雇用において、かつては同じ村から顔見知り参加していた田植えの作業(表中のRegularグループ)が、そのような人たちを集めるのが難しくなり、近隣の村の新参の労働者(OccasionalやNew)に置き換わっていることが分かる(Kajisa et al., 2023)。また、計量分析の結果、そのような新参者の割合が多いほど収量に負の影響が現れていることも分かった(加治佐, 2020)。このような人手不足を反映し、当該地域では農業労働賃金率も上昇してきている。稲作の持続的発展のためには、賃金率の高騰してきた農村労働を機械化によって代替することが肝要である。これは、市場メカニズムが機能することが大切であることを意味している。

Table 3: Composition of hired labor for crop establishment 2012 - 2016

Wet Season	2012	2013	2014	2015
No. of hired labor/ha	23	22	21	26
Hired labor composition (%)				
Regular (>= 5 years)	62	61	53	35
Occasional (1-4 years)	21	14	21	37
New	17	25	27	28
Dry Season	2013	2014	2015	2016
No. of hired labor/ha	23	18	19	19
Hired labor composition (%)				
Regular (>= 5 years)	51	54	43	39
Occasional (1-4 years)	36	30	39	39
New	14	16	19	22

2012-2014 recall data
Source: the Loop Survey

(4) インド・タミルナドゥ州

同州では、伝統的にため池による稲作が行われ、そのため池は稲作農家により共同で維持管理が行われてきた。しかし、1980年代以降の農村電力無料政策の後押しもあり、電動ポンプによる地下水灌漑が進み、ため池の維持管理は大きく衰退した。一方で、地下水は、電力無料の下で過剰揚水による枯渇を免れ得ず、同地域の稲作全体が停滞した。ため池灌漑復活のために政府や援助機関が主導し、施設のリハビリが行われたが、概して1回限りのリハビリに終わり、一度崩壊した維持管理が復活することはなかった。そのような状況の中、NGOが村と共同で維持管理を行うという試みが広がりつつある。本研究では、そのような試みを既存の政府中心のプロジェクトと比較した結果、NGOの方が維持管理の復活と維持に成功しているケースが多い傾向が観察された(Jegadeesan et al., 2023)。これは、村共同体が衰退する中で、NGOが補完し、必要な活動を継続するという方が検討に値するであろうことを示唆する結果と解釈できる。

(5) ネパール

ネパールは2015年に大震災に見舞われた。その際、多くの家屋が倒壊したが、その影響が一樣ではないことに注目し、その決定要因として海外出稼ぎ、近代建築、倒壊被害の関連について分析した。結果、海外出稼ぎを出している家計（よって送金で豊かになっている）ほど近代建築（コンクリなどによる家屋）が多かった。近代建築の方が倒壊被害は少ないが、出稼ぎ家計が建てた近代建築の方が倒壊確率が高いという結果を得た(Tachibana et al., 2023)。これは、出稼ぎで戸主が留守にしている場合、情報の非対称性の下で基準を守らない違法建築が行われていた可能性を示唆している。伝統的な家屋が村の大工によって建築される場合と異なり、近代建築は施工者が村とは無縁の場合も多く、共同体メカニズムも機能しなかったと思われる。このようなケースは、政府がルールをきちんと定めその遵守も徹底させる制度が必要であろうことが示唆された。

(6) まとめ

スリランカのケースにおいて、灌漑の導入が公共性規範を高めることにつながった分析結果は、速水＝ルタンの誘発的制度改革を支持する結果と解釈できる。しかし、近代化がさらに進むにつれ、村共同体が複雑化し（ラグナ州における移住、タミルナドゥ州における灌漑水源の多様化、ネパールにおける近代建築業者の参入）、誘発的革新が自動的に発動されることは難しくなっているようである。本研究プロジェクトからは、市場機能の発揮により新しい技術へ移りやすくする（中部ルソンの機械化）、NGOなど共同体に近い組織が補完的役割を担う（タミルナドゥ州のケース）、政府が建築基準やその遵守の制度を確立し、市場を機能させる（ネパールのケース）など補完的政策を機動的に発動することが重要であるという含意が得られた。

< 引用文献 >

Kajisa, K., Sawada, Y., and Higuchi, Y. 2021. Demographic dynamics in a rice village in the Philippines from 1918 to 2018, *Aoyama Journal of International Studies*, 8, 31-48.

Kajisa, K., Moya, P. and Gascon, F. 2023. The Central Luzon Loop Survey: Rice Farming in the Philippines from 1966 to 2021. In *Agricultural Development in Asia and Africa Essays in Honor of Keijiro Otsuka*, Edited by Estudillo, J., Sonobe, T., and Kijima, Y. Springer.

Talhelm, T., X. Zhang, S. Oishi, C. Shimin, D. Duan, X. Lan, and S. Kitayama (2014) Large-Scale Psychological Differences Within China Explained by Rice Versus Wheat Agriculture. *Science*, 344, 603-608.

加治佐敬 『経済発展における共同体・国家・市場：アジア農村の近代化にみる役割の変化』日本評論社 2020年 ISBN: 978-4-535-55930-1

< 国際会議シンポジウム発表 >

Aida, T., Kajisa, K., Sawada, Y. 2023. Paddy Cultivation as an Origin of Cooperative Norms: Evidence from Natural and Artefactual Experiments” The 11th Asian Society of Agricultural Economists International Conference, Tokyo, Japan, March 18-19, 2023

Jegadeesan, M., Kajisa, K., Kumar, M.R. N., 2023. Institutional Dynamics and Role of Institution in Tank Water Management in Tamil Nadu, India, The 11th Asian Society of Agricultural Economists International Conference, Tokyo, Japan, March 18-19, 2023

Tachibana, T., Rayamajhi, S., Skurai, T., Kajisa, K. 2023. Does the Existence of Overseas Members Make Households More Resistant to Natural Hazards? An examination with the post-earthquake census data in Nepal, The 11th Asian Society of Agricultural Economists International Conference, Tokyo, Japan, March 18-19, 2023

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計21件（うち査読付論文 14件 / うち国際共著 9件 / うちオープンアクセス 10件）

1. 著者名 Kajisa, K.	4. 巻 9
2. 論文標題 The Asian Green Revolution at a crossroads due to increasing labor shortage: the case of rice farming in the Philippines	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Aoyama Journal of International Studies	6. 最初と最後の頁 53-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34321/22118	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 横山繁樹	4. 巻 59(4)
2. 論文標題 タンザニア先進稲作地域における水資源制約下での水田利用合理化の課題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 農業経営研究	6. 最初と最後の頁 69-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11300/fmsj.59.4_69	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Higuchi, Yuki, Higashida, Keisaku, Hossain, Mohammad, Sujauddin, Mohammad, Takahashi, Ryo, and Tanaka, Kenta	4. 巻 なし
2. 論文標題 From Hospitality to Hostility: Impact of the Rohingya Refugee Influx on the Sentiments of Host Communities.	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 SSRN working paper	6. 最初と最後の頁 1-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2139/ssrn.4348051	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 Sarujan Sathiyamoorthy, Kei Kajisa, Takeshi Sakurai	4. 巻 なし
2. 論文標題 Performance of community-based tank irrigation system and its determinants: Evidence from Tamil Nadu, India	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 The Developing Economies	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/deve.12347	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sato, Takeshi, Towa Tachibana, Takeshi Sakurai, and Santosh Rayamajhi	4. 巻 73
2. 論文標題 Do Remittances Make Poor Households More Resistant to `Natural Disasters'? Evidence from the 2015 Earthquake in Nepal	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 International Journal of Disaster Risk Reduction	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ijdr.2022.102858	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Kajisa, K. Sawada, Y., and Higuchi, Y.	4. 巻 8
2. 論文標題 Demographic dynamics in a rice village in the Philippines from 1918 to 2018	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Aoyama Journal of International Studies	6. 最初と最後の頁 31-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34321/21709	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kajisa, K.	4. 巻 1
2. 論文標題 Contemporary irrigation issues in Asia	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 a background paper for Asian Development Outlook 2021 Update: Transforming Agriculture in Asia	6. 最初と最後の頁 1-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takeshi Aida	4. 巻 71(4)
2. 論文標題 Social capital as an instrument for common pool resource management: a case study of irrigation management in Sri Lanka	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Oxford Economic Papers	6. 最初と最後の頁 952-978
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/oep/gpy058	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tachibana, Towa, Rie Goto, Takeshi Sakurai, Santosh Rayamajhi, Angel Adhikari, and William H. Dow	4. 巻 238
2. 論文標題 Do remittances alleviate negative impacts of disaster on mental health? A case of the 2015 Nepal earthquake	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Social Science and Medicine	6. 最初と最後の頁 112460-112464
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.socscimed.2019.112460	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Tachibana, Towa, Angel Adhikari, Santosh Rayamajhi, Takeshi Sakurai	4. 巻 18
2. 論文標題 Green Makes a Bold Comeback! Inventory Results of 101 Natural Forests in the Middle Hills of Nepal over Two Decades	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Forest and Livelihood	6. 最初と最後の頁 12 - 25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 加治佐敬	4. 巻 6
2. 論文標題 日本の農業水利の現状と課題：土地改良区への郵送アンケートの結果	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Aoyama Journal of International Studies	6. 最初と最後の頁 31-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yokoo Hide-Fumi, Kawai Kosuke, Higuchi Yuki	4. 巻 54
2. 論文標題 Informal recycling and social preferences: Evidence from household survey data in Vietnam	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Resource and Energy Economics	6. 最初と最後の頁 109 ~ 124
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.reseneeco.2018.08.001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Higuchi Yuki, Fuwa Nobuhiko, Kajisa Kei, Sato Takahiro, Sawada Yasuyuki	4. 巻 11
2. 論文標題 Disaster Aid Targeting and Self-Reporting Bias: Natural Experimental Evidence from the Philippines	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Sustainability	6. 最初と最後の頁 771 ~ 771
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/su11030771	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yokoyama, S., Dung, LC., Fuji, H., Hoshikawa, K., and Fujihara, Y.	4. 巻 15
2. 論文標題 Economic Feasibility of Diversified Farming System in the Flood-Prone Mekong Delta: Simulation for Diike Area in An Giang Province, Vietnam	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Asian Journal of Agriculture and Development	6. 最初と最後の頁 20 ~ 38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Yamaguchi Takayoshi, Tuan Luu Minh, Minamikawa Kazunori, Yokoyama Shigeki	4. 巻 212
2. 論文標題 Assessment of the relationship between adoption of a knowledge-intensive water-saving technique and irrigation conditions in the Mekong Delta of Vietnam	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Agricultural Water Management	6. 最初と最後の頁 162 ~ 171
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.agwat.2018.08.041	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Pede Valerien O., Areal Francisco J., Singbo Alphonse, McKinley Justin, Kajisa Kei	4. 巻 forthcoming
2. 論文標題 Spatial dependency and technical efficiency: an application of a Bayesian stochastic frontier model to irrigated and rainfed rice farmers in Bohol, Philippines	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Agricultural Economics	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/agec.12417	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Sakai Yoko、Estudillo Jonna P.、Fuwa Nobuhiko、Higuchi Yuki、Sawada Yasuyuki	4. 巻 94
2. 論文標題 Do Natural Disasters Affect the Poor Disproportionately? Price Change and Welfare Impact in the Aftermath of Typhoon Milenyo in the Rural Philippines	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 World Development	6. 最初と最後の頁 16～26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.worlddev.2016.12.036	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Otsuka Keijiro、Higuchi Yuki、Sonobe Tetsushi	4. 巻 46
2. 論文標題 Middle-income traps in East Asia: An inquiry into causes for slowdown in income growth	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 China Economic Review	6. 最初と最後の頁 S3～S16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.chieco.2017.02.002	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 横山繁樹	4. 巻 141
2. 論文標題 共有と協働による農業支援：農業現場における「半当事者」の役割	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 耕	6. 最初と最後の頁 31-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yamaguchi, T., Luu, M. T. Minekawa, K. Yokoyama, S.	4. 巻 61
2. 論文標題 Compatibility of Alternate Wetting and Drying Irrigation with Local Agriculture in An Giang Province, Mekong Delta, Vietnam	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Tropical Agriculture and Development	6. 最初と最後の頁 117-127
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11248/jsta.61.117	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 廣内慎司, 柳原誠司, 山田雅一, 廣瀬千佳子, 降旗英樹, 小田正人, 横山繁樹, 小出淳司	4. 巻 30
2. 論文標題 小規模ため池を利用した補給灌漑稲作マニュアル	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 応用水文	6. 最初と最後の頁 109-117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

[学会発表] 計32件 (うち招待講演 13件 / うち国際学会 14件)

1. 発表者名 Kajisa, K.
2. 発表標題 Toward Sustainable Irrigation in Asia
3. 学会等名 The 11th Asian Society of Agricultural Economists (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kajisa, K.
2. 発表標題 Sustainable and Resilient Irrigation in Asia: Roles of Community, State, and Market
3. 学会等名 The 2022 ISAE(PERHEPI) International Conference (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kajisa, K.
2. 発表標題 Changes in rice farming in the Philippines: insights from five decades of the Central Luzon Loop Survey
3. 学会等名 The 10th Asian Society of Agricultural Economists (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kajisa, K.
2. 発表標題 Contemporary irrigation issues in Asia
3. 学会等名 The 10th Asian Society of Agricultural Economists (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Shiela M. Valencia (研究協力者)
2. 発表標題 Rice Farming and Rice farmers in the Philippines from 1966 to 2021: Insights from the Central Luzon Loop Survey
3. 学会等名 The 11th Asian Society of Agricultural Economists (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Takeshi Aida
2. 発表標題 Paddy Cultivation as an Origin of Cooperative Norms: Evidence from Natural and Lab-in-the-Field Experiments
3. 学会等名 The 11th Asian Society of Agricultural Economists (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 K. Palanisami (研究協力者)
2. 発表標題 Tank irrigation management in Tamil Nadu, India: Historical Review and Future Options
3. 学会等名 The 11th Asian Society of Agricultural Economists (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Muniandi Jegadeesan (研究協力者)
2. 発表標題 Institutional Dynamics and Role of Institution in Tank Water Management in Tamil Nadu
3. 学会等名 The 11th Asian Society of Agricultural Economists (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Takeshi Sakurai
2. 発表標題 Does the Existence of Overseas Members Make Households More Resistant to Natural Hazards? An examination with the post-earthquake census data in Nepal
3. 学会等名 The 11th Asian Society of Agricultural Economists (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 廣内慎司・柳原誠司・横山繁樹・進藤惣治・宇野健一・星川健
2. 発表標題 アフリカのかんがいスキームにおける水資源利用効率化に資する技術マニュアル
3. 学会等名 2022年度農業農村工学会大会講演会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 横山繁樹
2. 発表標題 小農の主体形成と協働者の役割：マダガスカル稲作を事例に
3. 学会等名 2020年農業問題研究学会秋季大会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Higuchi, Yuki
2. 発表標題 From Hospitality to Hostility: Impact of the Rohingya Refugee Influx on the Sentiments of Host Communities
3. 学会等名 Young JADE (Japan Association for Development Economics) Conference 2022
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Sarujan Sathiyamoorthy, Kei Kajisa, Takeshi Sakurai
2. 発表標題 Performance of Tank Irrigation System and Its Determinants: The Case of Tamil Nadu in India
3. 学会等名 2021年度日本農業経済学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 會田剛史
2. 発表標題 Paddy Cultivation as an Origin of Cooperative Norms: Evidence from Natural and Artefactual Experiments
3. 学会等名 東北大学Data Science Workshop (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 會田剛史
2. 発表標題 Paddy Cultivation as an Origin of Cooperative Norms: Evidence from Natural and Artefactual Experiments
3. 学会等名 関西労働研究会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 會田剛史
2. 発表標題 Paddy Cultivation as an Origin of Cooperative Norms: Evidence from Natural and Artefactual Experiments
3. 学会等名 筑波大学PEPP Seminar (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 橘 永久
2. 発表標題 Does the Existence of Overseas Members Make Households More Resilient against Natural Hazards? An examination with the post-earthquake census data in Nepal
3. 学会等名 日本経済学会2021年度秋季大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kajisa, K.
2. 発表標題 Changing roles of communities in irrigation management: lessons from Japan, China, and India.
3. 学会等名 第70回地域農林経済学会国際ミニシンポジウム (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kajisa, K.
2. 発表標題 Does a new informal credit arrangement improve poor 's welfare? The case of debit card pawning in the Philippines
3. 学会等名 Institute of Southeast Asian Studies (ISEAS) Seminar (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 會田剛史
2. 発表標題 Spatial vs. Social Network Effects in Risk Sharing
3. 学会等名 2020年度アジア経済発展論研究会（第7回）（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 橘 永久
2. 発表標題 Do the Rich Suer Less Damage from a Natural Hazard? The Case of the 2015 Nepal Earthquake
3. 学会等名 日本経済学会2020年度春季大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 横山繁樹
2. 発表標題 農家間の技術情報伝達に関する予備的考察 マダガスカルにおける稲作普及プロジェクトを素材に
3. 学会等名 日本農業普及学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 SAYANAGI, RN., RANDRIAMANANA, T., RAZAFIMBELONAINA, HSA., RABEMANANTSO, N., ABEL-RATOVO, HL., and YOKOYAMA, S.
2. 発表標題 Psychological Measurement of Motivation in Development Aid Programs: Findings and Challenges from a Farmer Training Program in Madagascar
3. 学会等名 The 82nd Annual Convention of the Japanese Psychological Association Program
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 會田剛史
2. 発表標題 Spatial vs. Social Network Effects in Risk Sharing
3. 学会等名 東北大学DSSRセミナー（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Takeshi Aida
2. 発表標題 Spatial vs. Social Network Effects in Risk Sharing
3. 学会等名 The 16th International Convention of the East Asian Economic Association (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 櫻井武司
2. 発表標題 人口減少下の農村と農業：ネパールと日本
3. 学会等名 日本学術会議公開シンポジウム「地球システムと私たちの生活：人新世時代の想像力」（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Takeshi Sakurai
2. 発表標題 What is Comparative Institutional Analysis? Some Thoughts from the Perspective of Economics
3. 学会等名 International Conference of "Past and Present of Governance of Rural Resources: Comparative Institutional Analysis of Japan and India"（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Takeshi Sakurai
2. 発表標題 Comparative Institutional Analysis on Community-based Forest Management in Japan and India
3. 学会等名 International Conference of "Past and Present of Governance of Rural Resources: Comparative Institutional Analysis of Japan and India" (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Aida, Takeshi
2. 発表標題 Spatial vs. Social Network Effects in Risk Sharing
3. 学会等名 International Association for Applied Econometrics 2017 Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Tachibana, Towa
2. 発表標題 Has Community-based Management Improved Natural Resource Condition? Evidence from the Forests in Nepal
3. 学会等名 JpGU (Japan Geoscience Union)-AGU Joint Meeting 2017
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Iwanaga, Seiji, Yokoyama, Shigeki
2. 発表標題 Policy effects for forest conservation and local livelihood improvement in Vietnam: A case of Bach Ma National Park
3. 学会等名 第27回日本熱帯生態学会年次大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Sakurai, Takeshi
2. 発表標題 Weather Shock on Household Welfare: Health, Labor Supply, and Food Consumption
3. 学会等名 International Symposium "Development of Climate Change Adaptation Strategies for Human Health Impacts in Urban Area of East Africa" (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 加治佐敬	4. 発行年 2020年
2. 出版社 日本評論社	5. 総ページ数 304
3. 書名 経済発展における共同体・国家・市場：アジア農村の近代化にみる役割の変化	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	横山 繁樹 (Yokoyama Shigeki) (30425590)	国立研究開発法人国際農林水産業研究センター・企画連携部・再雇用職員 (82104)	
研究分担者	櫻井 武司 (Sakurai Takeshi) (40343769)	東京大学・大学院農学生命科学研究科(農学部)・教授 (12601)	
研究分担者	會田 剛史 (Aida Takeshi) (40772645)	独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所・開発研究センター・マイクロ経済分析研究グループ・研究員 (82512)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	樋口 裕城 (Higuchi Yuki) (60757269)	上智大学・経済学部・准教授 (32621)	
研究分担者	橘 永久 (Tachibana Towa) (70301017)	千葉大学・大学院社会科学研究院・教授 (12501)	
研究分担者	不破 信彦 (Fuwa Nobuhiko) (90302538)	東京大学・大学院公共政策学連携研究部・教育部・教授 (12601)	2018年ご逝去。

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	K Palanisami (K. Palanisami)	Tamil Nadu Agricultural University・Professor emeritus	
研究協力者	Jegadeesan Muniandi (Jegadeesan Muniandi)	Tamil Nadu Agricultural University・Assistant Professor	
研究協力者	Pede Val (Pede Val)	International Rice Research Institute・Senior Economist	
研究協力者	Rayamajhi Santosh (Rayamajhi Santosh)	Tribhuvan University・Research Director	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
インド	Tamil Nadu Agricultural University			
スリランカ	Yaso Udana Development Consultants			
ネパール	Tribhuvan University			
フィリピン	International Rice Research Institute			
フィリピン	International Rice Research Institute	University of the Philippines, Los Banos		
ネパール	Tribhuvan University			